

# 外国部隊は一部撤収へ

## 雨続きで生存は絶望か

### 地滑り災害から1週間

南レイテ州

南レイテ州セントベルナルド町で大規模地滑りが発生してから一週間の二十三日、生き埋めとなった推定千人以上の被災者の生存はほぼ絶望となり、外国からの救援部隊が撤収を検討し始めた。

この日朝八時ごろから、被災地一帯はかなり激しい降雨に見舞われ、同町ギンサオゴン小学校を中心とした生存者捜索活動は正午前に打ち切られた。しかし、レリアス州知事は同日夜の記者会見で、衛星やヘリからの空中撮影で小学校の屋根が確認されたとして、二十四日も捜索を続行する方針を明らかにした。

緑色の屋根は小学校所在地から南東の方向に約三百メートル流されていたもよう。付近から生きて二ワトリやノートブックなども発見され、被災者生存にわずかな望みをつなぐ根拠となったという。

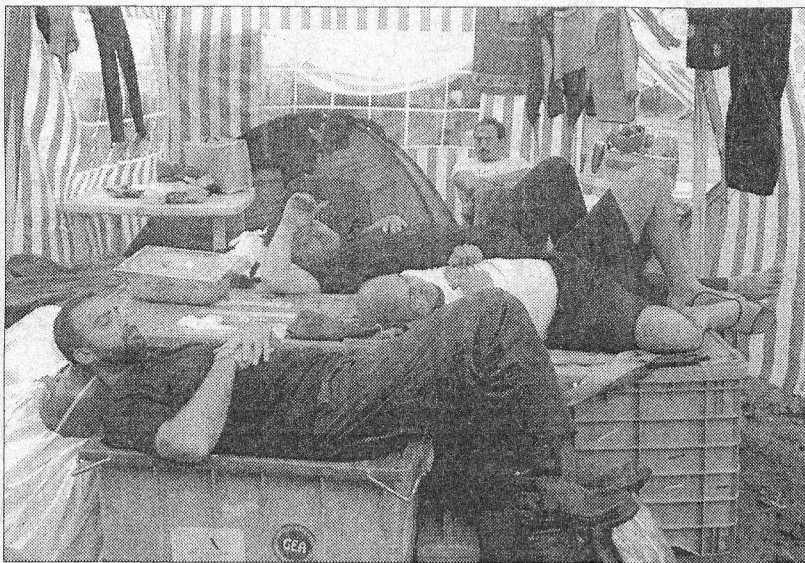
一方、六つの外国・地域からの支援部隊は、それぞれ生存の可能性がほぼ失

れたとして、スペイン、マレーシアなどが撤収の準備に入った。

この日の捜索活動は降雨のため、被災現地の泥ねい化が急速に進み、山麓に近い同小学校への接近も困難になった。このため、台湾

部隊の一人が泥に首までつかかり、米軍ヘリに搬送される事故が発生した。

活動を指揮するラモス第八師団長は作業の中断を命じ、午後からは、米海兵隊が臨時通行路の整備を開始し、石を積んだセトントラ



雨で救援活動ができず、テントで待機するトルコ部隊=23日午後3時ごろ写す

ックが悪路に苦しみながら水たまりができて足場の悪くなった中を往復した。早くから探索犬五匹を連れて生存者発見に努力していたスペイン救援隊は二十四日にも撤収する意向を明らかにした。フルトス隊長(45)は「暑熱で捜索犬がかなり疲れている。今までに経験した救助現場の中で最も困難な現場だ」と語った。

避難民の医療活動を続ける岡山県の医療支援団体「AMDA」も、負傷者が少なく精神的ケアの方が必要になるなどの理由から近日に引き上げを決定した。二十四日にヘリコプターで空からの調査を実施する予定だった国際協力機構(JICA)の専門家二人も、公共事業道路省がヘリコプターを調達できず、調査を延期した。

二十二日に現地入りしたトルコの救援部隊九人は、医療チーム四人を除く五人が雨が止むのを待ってテントで待機したまま、オズグー・ボゾグル隊長(32)は、一九九九年のトルコ地震で七日後に女性の生存者を救出した。可能性はまだあると思うが、地滑り事故ではチャンスは(地震より)少ない」と話した。

町役場の現地合同対策本部によると、地滑り発生直後の避難民は約二千三百人だったが、同町の他のバラングイからも住民が避難してきたため、二十三日現在では三千十九人に増えた。

感染症にかかった避難民は二十一日現在で、水ぼうそう十一人、結膜炎十四人。